

よりよく生きる

2学期スタート！！！！

本日より、2学期がスタートしました。2学期も、道徳通信を発行し、授業の様子や道徳的実践力を高めるための啓発活動をしていきたいと考えています。よろしくお願いいたします。

1学期は、道徳のチームティーチングの授業を実施してきました。1学期最後のアンケートでは、チームティーチングの授業により、クラスの人々と話し合う内容が深まったり、自分自身の考えを深めたりすることができたという感想を書いている生徒が多かったです。2学期も引き続き、チームティーチングによる授業を実践していきます。

また、11月25日（火）に道徳研究大会を広見中学校で開催します。愛媛県から、多くの先生方にお越しいただき、広見中学校の道徳の授業を見ていただきます。広見中学校の道徳の授業実践を見ていただくよい機会です。この研究大会を通して、よりよい授業の在り方についても検討していき、さらに授業改善に努めていきたいと考えています。生徒の皆さんも、楽しみにしておいてください。

今回は、少し内容は難しいですが、デュルケムの道徳教育論について紹介したいと思います。



・エミール・デュルケムは、1858年から1917年の時代を生きたフランスの社会学者で、社会学のほか、教育学や哲学の分野でも活躍した人物である。

【デュルケムの道徳教育論とは】

・デュルケムの道徳教育論は、近代社会の統合と調和に不可欠な道徳性を、実証的な社会学の視点から捉え直した。

・彼は、道徳を「規律の精神」「社会集団への愛着」「意志の自律性」という3つの主要な要素から成るとした。教育は、社会化を計画的に進めることであり、個々に社会集団と結びつく道徳性を身に付けさせ、社会全体の調和を目指すものだと説いた。

【道徳性の要素】

・規律の精神：社会の秩序や規則を守り、自らを律する精神

・社会集団への愛着：所属する共同体（国や社会）への愛着と連帯感

・意志の自律性：社会の規範を内面化し、自らの意志によって行動する能力

【簡単に例えると・・・】

チームで協力するスポーツ（社会集団）において、ルール（規律の精神）を守り、チームメイトと協力し合う（社会集団への愛着）ことで、試合に勝利する（社会的存在としての役割を果たす）ことを目指すようなものです。